

それぞれの夏の体験！

この夏、多くの市民がボランティア活動やものづくりなど、さまざまなことにチャレンジしました。

そんな一人ひとりの“夏の体験”をご紹介します！



古新聞が素敵バックに大変身

玉青館で開催した英字新聞を使ったエコバックづくり体験では、子どもから大人まで幅広い世代が参加し、ボンドやローラーを使って夢中で制作。南あわじ市の特産柄マスキングテープで仕上げ、自分だけのオリジナルエコバックが完成しました。「家でも作りたい」「使うのが楽しみ」「ボンドを丁寧に伸ばすのが難しかった」などの感想が寄せられ、身近な素材で楽しく SDGs を学ぶ機会になりました。

つながり広がる、夏休みの思い出

8月3日開催の『じんけんサマーフェスティバル 2025』では、平成看護専門学校の学生ボランティアがポップコーンや綿菓子の提供、輪投げなどを通じて地域の方々と交流しました。参加者との会話やふれあいを通して、学生たちは人との関わり大切さや地域とのつながりを実感し、貴重な学びを得る機会となりました。夏休みのひとときに、心に残る経験と成長の場が生まれました。

サマーチャレンジボランティア「未来につながる体験」

活動内容

- ◎施設利用者との会話やお茶出し、配膳、下膳
- ◎レクリエーション活動の手伝い
- ◎子どもたちの見守りや遊び相手 など

参加者の声

「高齢者の方々や子どもたちとのふれあいを通して、思いやりの心や相手を尊重する姿勢を学びました」

「利用者も職員の方々もとても温かく接してくれ、自分自身も元気をもらえました」

「人と関わる仕事に興味を持ち、進路を考えるヒントにもなりました」



今回の体験を通して、「人とのつながり」や「社会との関わり」の大切さを学んだという感想が寄せられました。今後も、さまざまなボランティア活動を通して、多くの気づきや学びが広がっていくことを願っています。

【発行】南あわじ市社会福祉協議会

〒656-0122 南あわじ市広田広田 1064

【電話】44-3007 【FAX】44-3037

【メール】info@minamiawaji-shakyo.or.jp



@MINAMIWAZI_SHAKYO



@FLAT_HOUMU



南あわじ市社会福祉協議会 生活支援コーディネーターだより

登録サロン数
90 か所
(R7.8月現在)



もしもの時、どう動く？ ～災害時に迷わないために、今できること～

地域で防災を考える時間

災害はいつ、どこで起こるかわかりません。

そんな“もしも”に備えて、市地区公民館の「集いの場」で、風水害をテーマに防災ゲーム「クロスロード」を体験し、実際の災害時の様子や映像を見ながら、災害時の“難しい選択”について話し合いました。

例えば、「避難勧告が出たけれど、ペットを連れて避難するのか？」「浸水が始まっている中、身体の不自由な配偶者と避難するのか、自宅にとどまるのか？」など、正解のない問いに向き合うことで、災害時の判断の大切さを学びました。



「早めの判断」がカギ

災害時の対応は、家の立地や家族構成、地域の状況によって大きく異なります。重要なのは、「暗くなる前」や「水があふれ出す前」に行動するという“先を見越した判断”です。近年では、突然の集中豪雨など予測が難しい災害も増えており、「避難しないこと」がかえって安全な場合もあります。

普段から考えておこう「自分の避難行動」

- ◎いつ逃げる？（避難情報や天気の変化に注意しましょう）
- ◎どこに逃げる？（避難所以外の自主避難先を考えておきましょう）
- ◎だれと逃げる？（家族・近所の人と声をかけ合って避難しましょう）

顔の見える関係が、防災の力に

7月30日の津波注意報のように、災害は突然起こります。

そんな時、近くに声をかけ合える人がいることが、何よりの安心につながります。災害時に本当に頼りになるのは、日頃からのつながりです。いざという時、声をかけ合える地域づくりを、今から始めましょう。まずは、誰かに「こんにちは」と声をかけてみませんか？



言葉の ミニガイド

クロスロードゲームは、防災教育の一環として活用されるカード型対話ゲームです。災害時の「究極の選択」をテーマに、参加者がYESかNOを選び、その理由を話し合うことで、多様な価値観や判断基準を理解し合います。正解のない問いを通じて、共感力や意思決定力を育むことが目的です。このゲームは、地域の防災学習や研修などに活用していただけるよう、貸し出しも行っています。お気軽にお問い合わせください。



★ふれあい・いきいきサロン活動のご相談は、生活支援コーディネーターへ★
南あわじ市社会福祉協議会 ☎ 0799-44-3007

